

春季特別展

弥生の里

～くらしといのり～

2011.4.16(土)～6.12(日)

■開館時間 午前9時～午後5時(ただし、入館は午後4時30分まで) ■休館日 月曜日

■入館料 大人800円(500円)、高・大学生450円(350円)、小・中学生300円(250円)
()内は20名以上の団体料金

■主催 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 ■共催 奈良県立民俗博物館・橿原市昆虫館

■後援* NHK奈良放送局・JAならけん

橿原考古学研究所附属博物館

THE MUSEUM, ARCHAEOLOGICAL INSTITUTE OF KASHIHARA, NARA PREFECTURE

〒634-0065 奈良県橿原市秋篠町50-2 ●Tel 0744-24-1185 ●Fax 0744-24-1355 ●URL <http://www.kashikoken.jp/museum/>

写真：水田から森林と巨勢山を望む / 御所市中西遺跡 イラスト：流水文(第1号)銅鐸【国宝】(神戸市立博物館蔵)から図化

春季特別展

弥生の里 ~くらしといのり~



弥生時代、人々の生活は狩猟を中心とした生活から稲作を中心とした生活へと変化しました。近年の発掘調査によって、奈良県内の弥生時代の水田の状況が徐々に明らかとなってきました。とくに、御所市中西遺跡の調査では弥生時代前期の小区画水田が広大に拡がることや水田と隣接する里山との関係を初めて確認することができ、弥生時代前期の農村風景を考える成果があがっています。

本展覧会ではこうした成果を踏まえ、人々の「くらし」の舞台であった水田や里山の風景や身近にすんでいた動物や昆虫も含め、弥生時代に人々が見たであろう景色を大胆に復元します。また、神に祈り、豊作を願う農耕儀礼は当時の人々にとって非常に大切なものでした。絵画土器や銅鐸に込められた弥生時代の人々の「いのり」の世界をあとづけ、県内各地に残る現代の農耕儀礼との接点についても探っていきます。

■研究講座 (聴講無料・申込不要)

時間：午後1時～午後4時15分(正午開場)

場所：奈良県立橿原考古学研究所 1階講堂

4月24日(日)「弥生の里～くらしといのり～」

当館 北井 利幸

「中西遺跡の調査成果」

当研究所 菊井 佳弥

「田んぼの虫たち・生き物たち」

橿原市昆虫館 中谷 康弘

5月15日(日)「弥生時代の稲作について」

芦屋市教育委員会 森岡 秀人氏

「稲作文化と農耕儀礼—大和の民俗にみる—」

龍谷大学 浦西 勉氏

6月5日(日)「稲作がもたらしたもの」

奈良教育大学 金原 正明氏

「水田風景の復元～科学の目でみた水田～」

総合地球環境学研究所 佐藤洋一郎氏

■展示解説 (入館料が必要です。)

時間：午前10時30分～午前11時30分

4月24日(日)・5月15日(日)・6月5日(日)

■遺跡見学会【国際博物館の日記念事業】

「矢田丘陵周辺の遺跡と農耕儀礼にふれる」

日時：5月8日(日) 午前10時集合～午後4時頃解散予定

集合場所：JR大和路線 大和小泉駅

※コース等詳細は別途ホームページに掲載します。

■関連イベント (参加無料、要申込)

「稲を育てよう—田植えから収穫まで—」(全4回)

5月22日(日) 午後1時～午後3時

「田植えの話と特別展の見学」

6月12日(日) 午前10時～午後3時

「橿原市昆虫館の見学と田植え体験」

※申込方法等詳細は別途ホームページに掲載します。



流水文(第1号)銅鐸【国宝】/神戸市灘区桜ヶ丘町出土
神戸市立博物館蔵



男菱形木製品【大阪府指定文化財】/和泉市池上曾根遺跡
大阪府立弥生文化博物館蔵

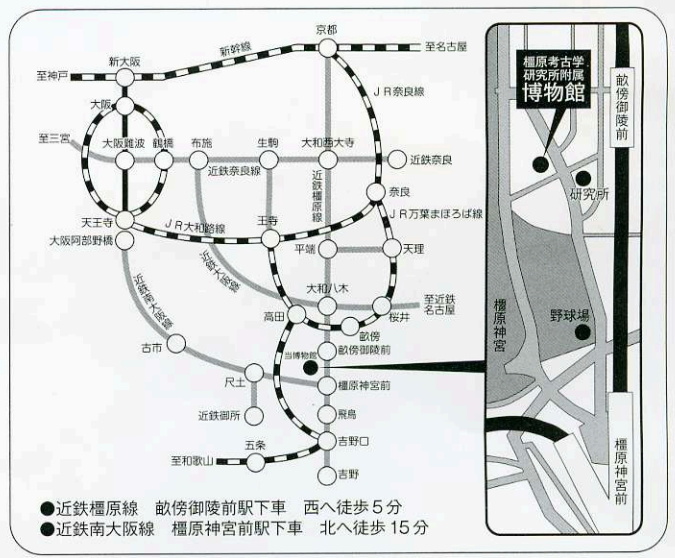


ネズミ返し【静岡県指定文化財】/静岡市登呂遺跡/静岡市立登呂博物館蔵

奈良 橿原考古学研究所附属博物館

THE MUSEUM, ARCHAEOLOGICAL INSTITUTE OF KASHIHARA, NARA PREFECTURE

●〒634-0065 奈良県橿原市御傍町50-2 ●Tel 0744-24-1185 ●Fax 0744-24-1355 ●URL <http://www.kashikoken.jp/museum/>



●近鉄橿原線 御傍御陵前駅下車 西へ徒歩5分
●近鉄南大阪線 橿原神宮前駅下車 北へ徒歩15分

関連展示のご案内 橿原市昆虫館特別展「田んぼの生き物たち～奈良盆地の水田生態系～」
2011年6月21日(火)～10月10日(月・祝日) 詳しくは橿原市昆虫館(Tel0744-24-7246)まで